



「神」JAZZで演奏する四万十高校音楽部の皆さん

野球部後援会準備会の役割としては、野球部再発足に向けて一定の経費が見込まれるため、地域全体で物心両面にわたり支援することを目的としています。

なお、この準備会は野球部の正式発足と同時に後援会に移行する予定としています。

今後は、町外からの入学者の住環境や、野球部の活動開始に向けた環境整備を行っていくことになり、既に野球部の支援を目的に町に対し企業版ふるさと納税をしていただいた企業があるなど



韓国との交流事業に参加した窪川高校の生徒たち

先の9月議会でもご報告しましたように、県は本年3月に県立高等学校振興再編計画を策定し、窪川高校については「入学生徒数41人以上、地元中学校からの進学割合50%以上」という努力目標を設定しました。

この目標の達成に向けて、学校と町、地域が連携し、アクションプランを策定・実行のうえ、学校の魅力化・特色化を一層推進していくこととされています。

県立高等学校の振興策

本町の今後の児童生徒数の推移などを考えると、現状のままで目標を達成することは非常に厳しい状況にあることから、学校側と協議を行い、窪川高校においても四万十高校と同様に、町外からの入学者確保に連携して取り組むこととしました。

その中で、町外からの入学者を積極的に確保するため、本年度から新たに始まったフロンティア募集という入試制度を導入するとともに、部活動の活性化策の一環として高校野球部の復活に向けた協議を進め、10月24日に窪川高校野球部後援会準備会の設立に至ったところです。

野球部後援会準備会の役割としては、野球部再発足に向けて一定の経費が見込まれるため、地域全体で物心両面にわたり支援することを目的としています。

なお、この準備会は野球部の正式発足と同時に後援会に移行する予定としています。

今後は、町外からの入学者の住環境や、野球部の活動開始に向けた環境整備を行っていくことになり、既に野球部の支援を目的に町に対し企業版ふるさと納税をしていただいた企業があるなど

町外からもこの取り組みを支援する動きが高まっています。

町としても、令和9年度までの前期計画期間が、地元高校の将来を左右する極めて重要な期間であると強く認識しています。このため、危機感を持って取り組むとともに、地域全体で応援の意識を醸成しながら、アクションプランの着実な実行を通じて、さらなる魅力化を目指していきます。

地元高校の今後の歩みは、まさに『町の未来』そのものです。何よりも地域の皆さまのご理解とご協力があってこそ、若者が集い、育ち、地域が元気になるものと考えておりますので、ご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。



災害発生時の被災者支援に備える参加者

災害に備え重機操作を学ぶ実践研修

災害現場での重機操作や支援方法を学ぶ研修を、令和7年11月26日から27日の2日間、金上野地区の町有地で実施しました。

この研修は、令和5年度に（公財）B&G財団と「防災拠点の設置および災害時相互支援体制構築」に係る協定を締結したことをきっかけに、町職員や消防署員などを対象に毎年実施しています。

講師には、現在も能登半島地震などの被災地で支援を行っている災害ボランティアの方をお招きし、バックホウでの土砂の撤去方法や流木の掴み方、ダンプへの積込方法などを学びました。



教室に参加した子どもたちと指導者の皆さん

全10回達成！バドミントン教室終了

くぼかわスポーツクラブ主催の「四万十町バドミントン教室」が、令和7年11月27日に全10回の日程を終え、終了式が行われました。

今年は町内の小学5年生から中学3年生までの13名が参加し、基礎練習からゲーム形式に至る一連の技術の取得に取り組みました。回を重ねるごとに技術が向上した参加者たちは、最終日にはこれまでの練習の成果を、ダブルスの試合で存分に発揮していました。上手くできて喜んだり、失敗して悔しがったり、バドミントン教室での体験を通して成長した子どもたちでした。



列車内でサクソフォンを演奏する上野耕平さん（撮影：坪内政美）

予土線で味わう旅するコンサート列車

予土線を舞台に、秋の美しい景色と音楽を楽しむ「予土線コンサート列車」が、令和7年11月30日に運行されました。予土線利用促進対策協議会が初めて企画したもので、サクソフォン奏者の上野耕平さんと鉄道アナウンサーの久野知美さんを迎え、軽快なトークと生演奏で車内は特別な一体感に包まれました。

車窓から眺める美しい景色とすぐ目の前で奏でられる演奏に、参加者からは「ここでしか味わえない特別な体験ができた」との声が聞かれました。予土線と沿線地域の魅力を感じられる特別な空間となりました。



豪快に半尾の伊勢海老が入ったエビ汁

惜しまれつつ終幕！ふるさと祭り25年

志和地区の新鮮な魚介類を味わえる「志和ふるさとまつり」が令和7年11月30日、志和漁港周辺で開催されました。

25年ほど前に始まったこの祭りも、地域の高齢化により今年が最後の開催となりました。会場には夜明け前から並ぶお客さんの姿があるなど、多くの家族連れなどでにぎわいました。毎年大人気の伊勢海老汁やすり身入り天ぷらは早々に完売。

祭りの最後にはくじ入り餅投げが行われ、住民が一丸となって取り組んできた志和ならではのお祭りは、惜しまれつつも大盛況のうちに幕を閉じました。